

2023年3月期
決算説明会

2023年5月24日
株式会社ユタカ技研

Ⅰ．2023年3月期 決算概況

Ⅱ．2024年3月期 見通し

Ⅲ．事業状況

2023年3月期

決算概況

23年３月期連結決算概況

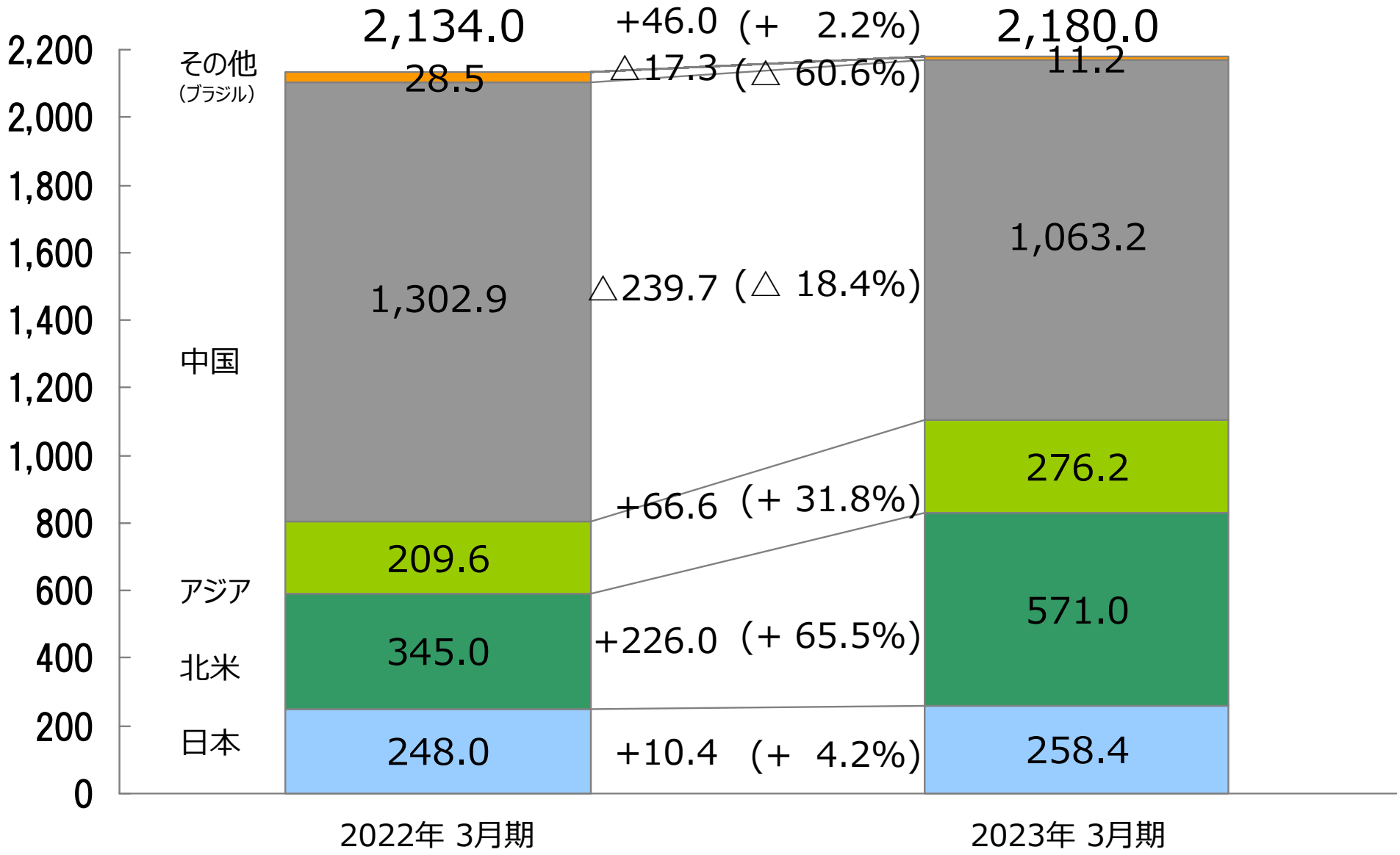
（単位：億円）

	2022年 3月期	2023年 3月期	増　減
売上収益	2,134.0	2,180.0	2.2%
営業利益	88.5	38.5	△56.5%
税引前利益	113.7	49.3	△56.6%
当期利益	68.8	16.4	△76.2%
親会社の所有者に帰属する当期利益	44.7	14.4	△67.7%
基本的１株当たり当期利益	301.35円	97.42円	△203.93円
１株当たり配当金	76.00円 ＊中間 36円，期末 40円	72.00円 ＊中間 36円，期末 36円	△4.00円
	($1=¥112)	($1=¥135)	

円安効果による増収はあったものの、
半導体供給不足に伴う顧客からの受注減少に加えて原材料や輸送費等の高騰により減益

23年３月期連結決算概況 地域別売上収益

（単位：億円）　　（セグメント間の内部売上収益及び振替高を除く）

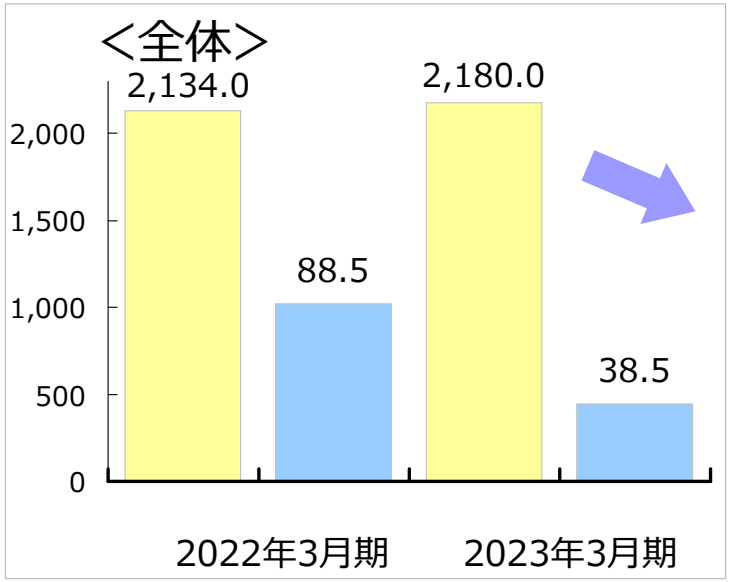


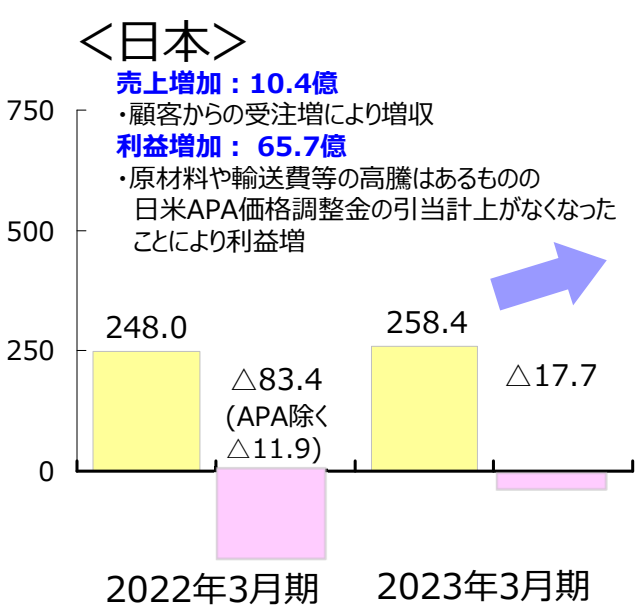
中国における減収はあるものの、主に北米における円安効果により、全体で増収

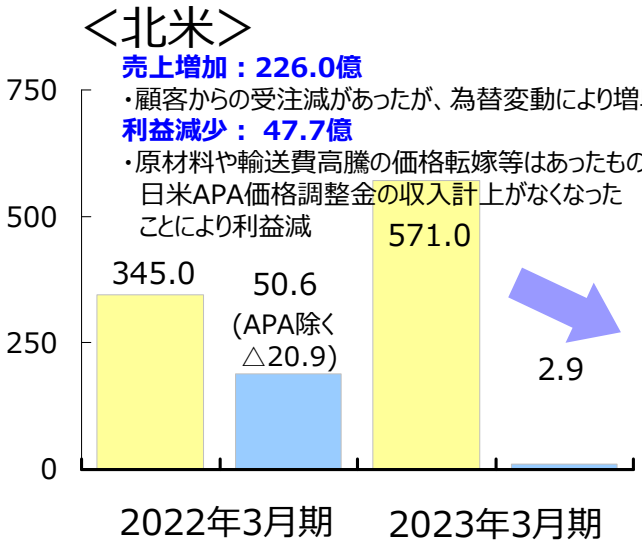
23年３月期連結決算概況 地域別営業利益

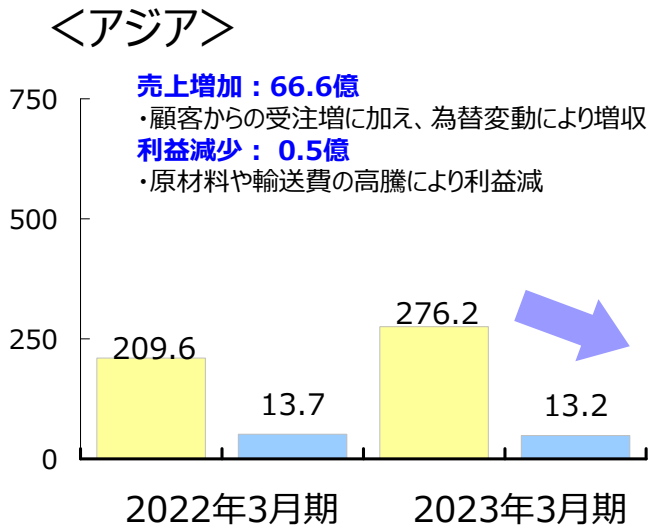
売上収益　利益増減　P5
営業利益　営業損失

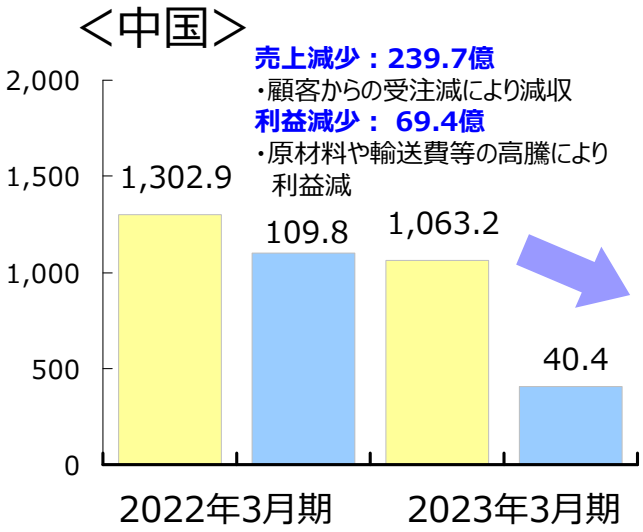
（単位：億円）

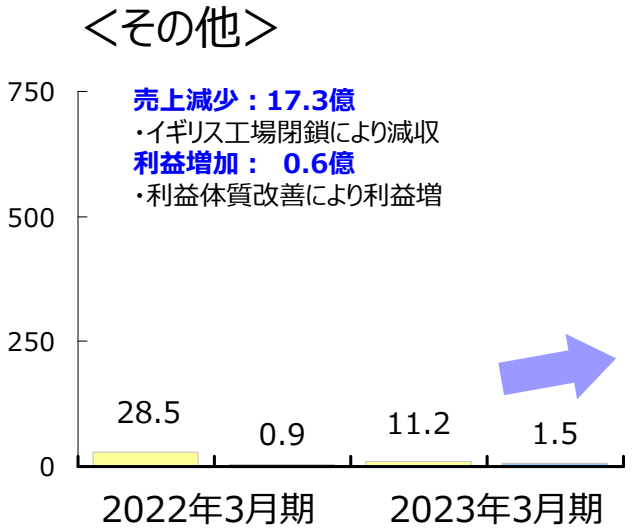








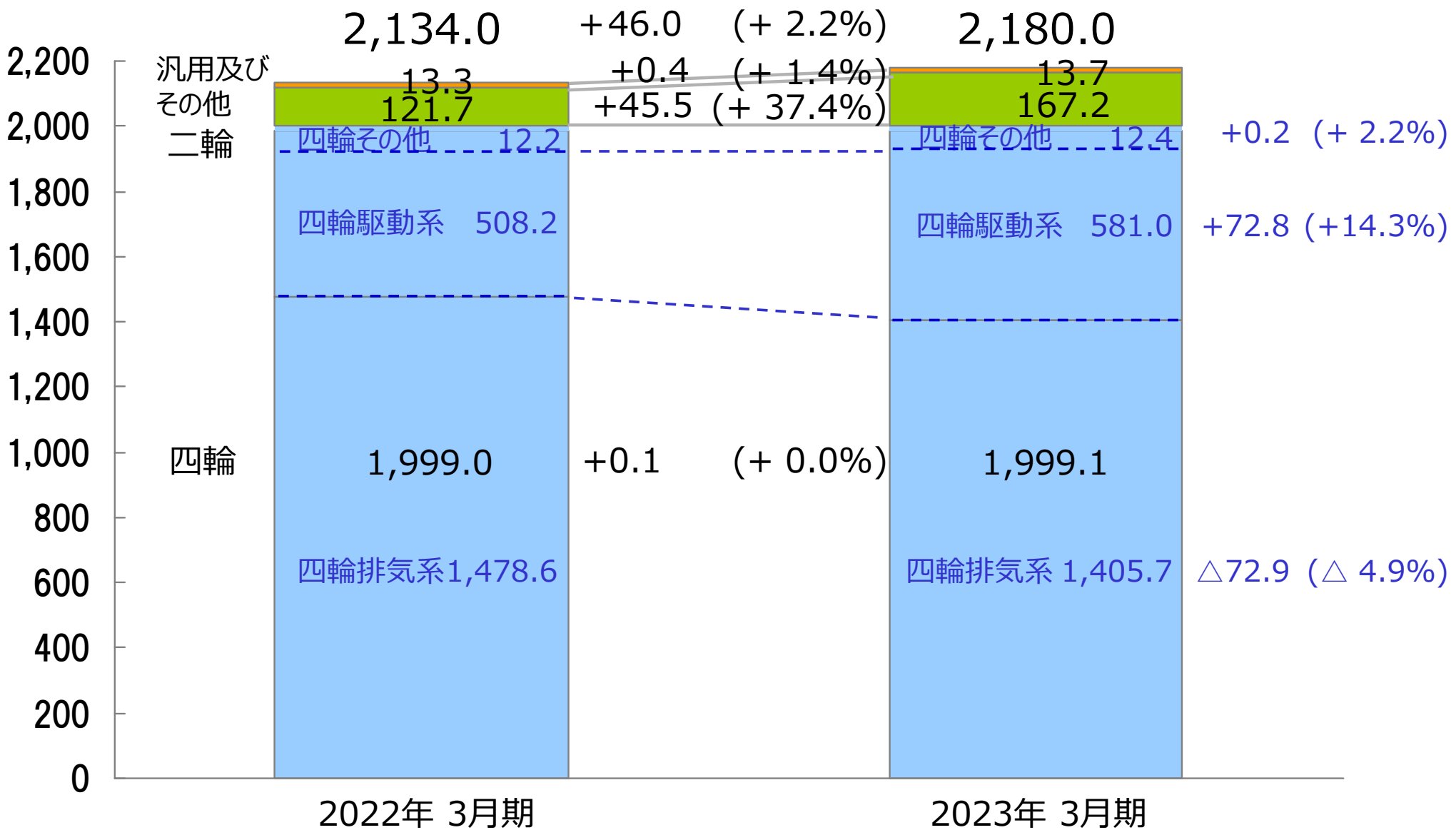




主に中国において顧客からの受注減少に加えて原材料や輸送費等の高騰により減益

23年３月期連結決算概況 製品別売上収益

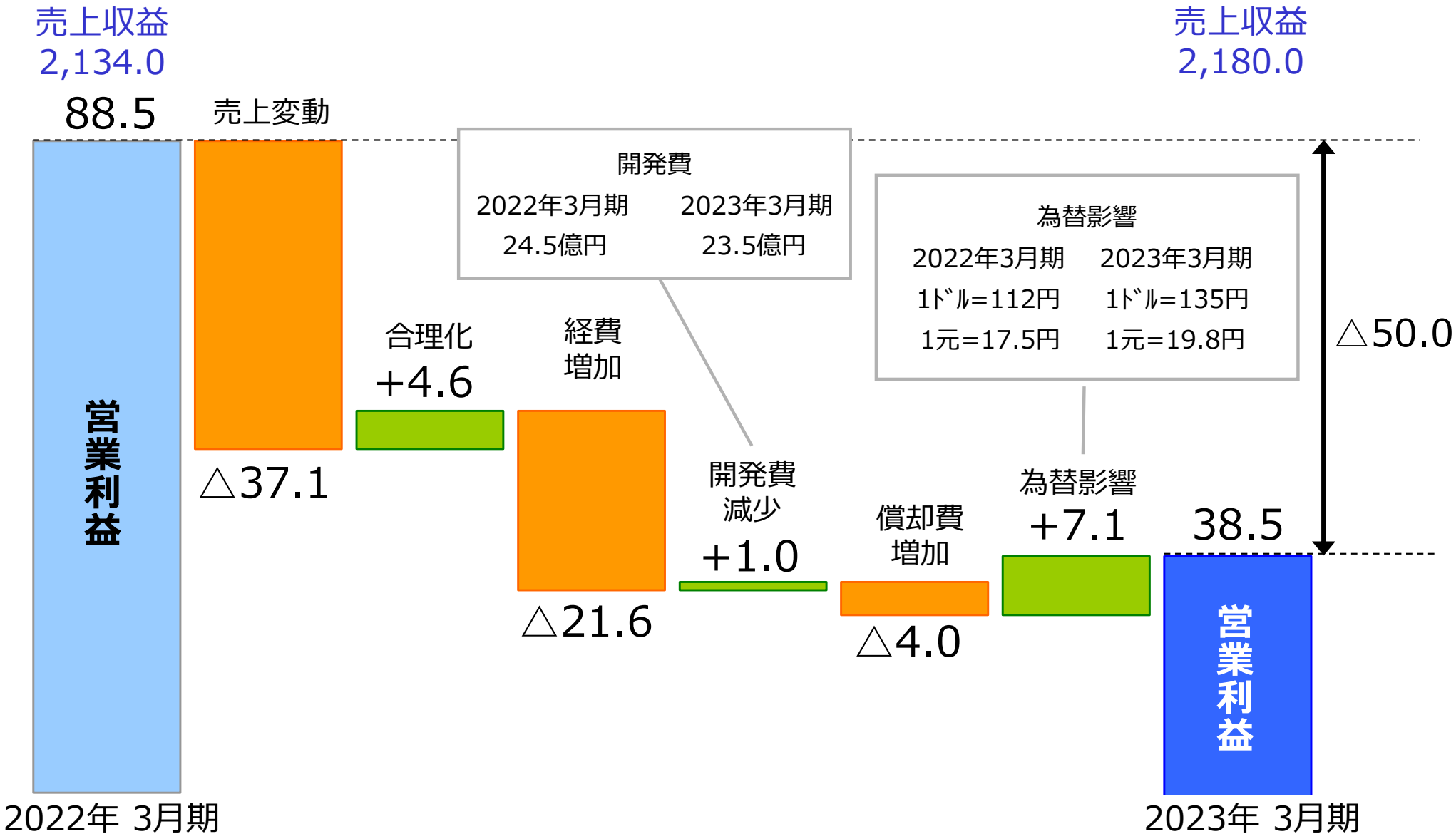
（単位：億円）



主に自動車部品四輪(駆動系)の受注増により増収

23年３月期連結決算概況 営業利益 増減要因

（単位：億円）



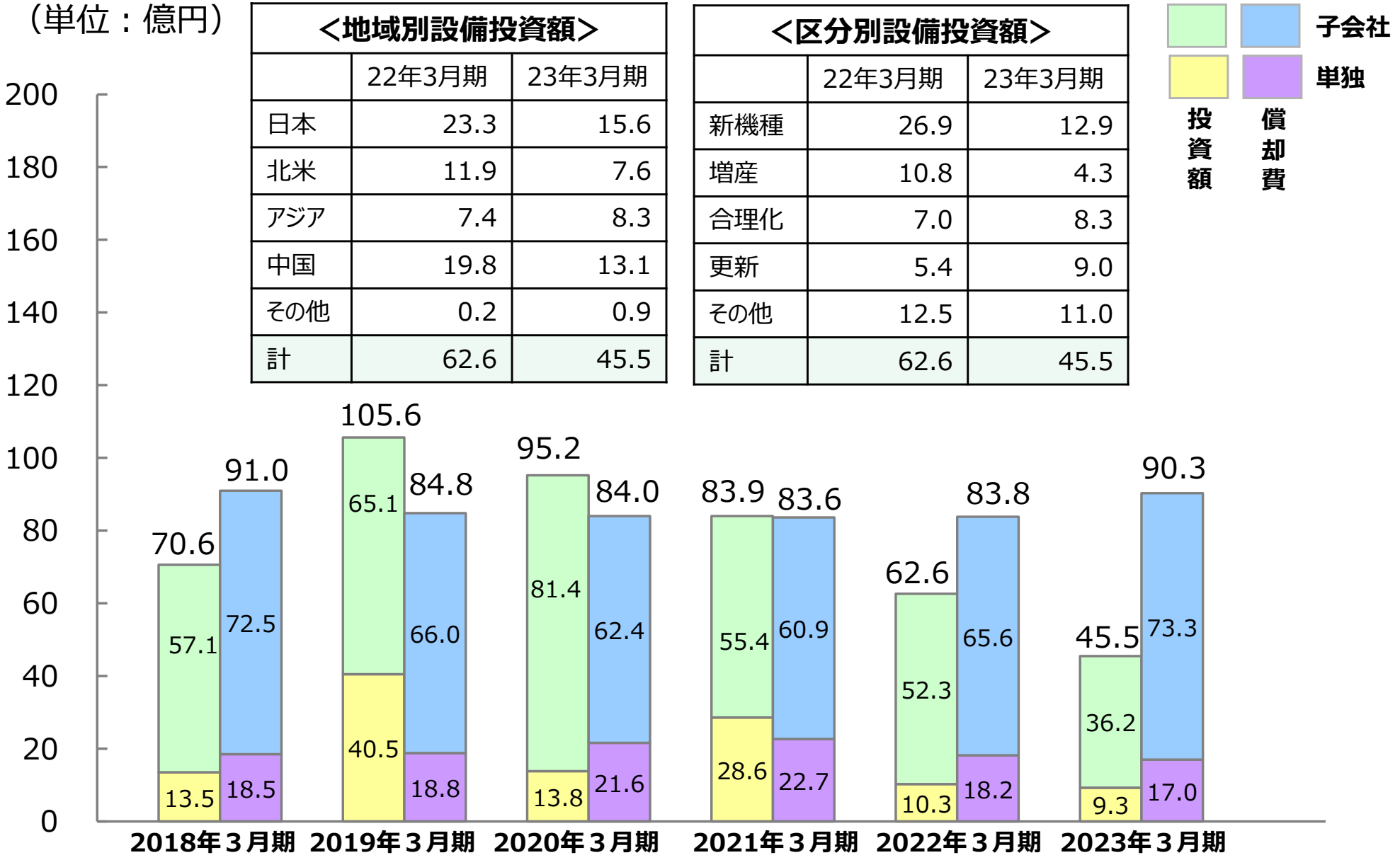
円安効果や合理化はあったものの、
半導体不足による減産に加えて原材料や輸送費等の高騰影響により減益

23年３月期連結決算概況 設備投資額の推移

（単位：億円）

＜地域別設備投資額＞	22年3月期	23年3月期
日本	23.3	15.6
北米	11.9	7.6
アジア	7.4	8.3
中国	19.8	13.1
その他	0.2	0.9
計	62.6	45.5

＜区分別設備投資額＞	22年3月期	23年3月期
新機種	26.9	12.9
増産	10.8	4.3
合理化	7.0	8.3
更新	5.4	9.0
その他	12.5	11.0
計	62.6	45.5



単独において新機種投資が減少、
子会社において新機種投資、増産投資が減少

2024年3月期
見通し

24年３月期連結見通し

（単位：億円）

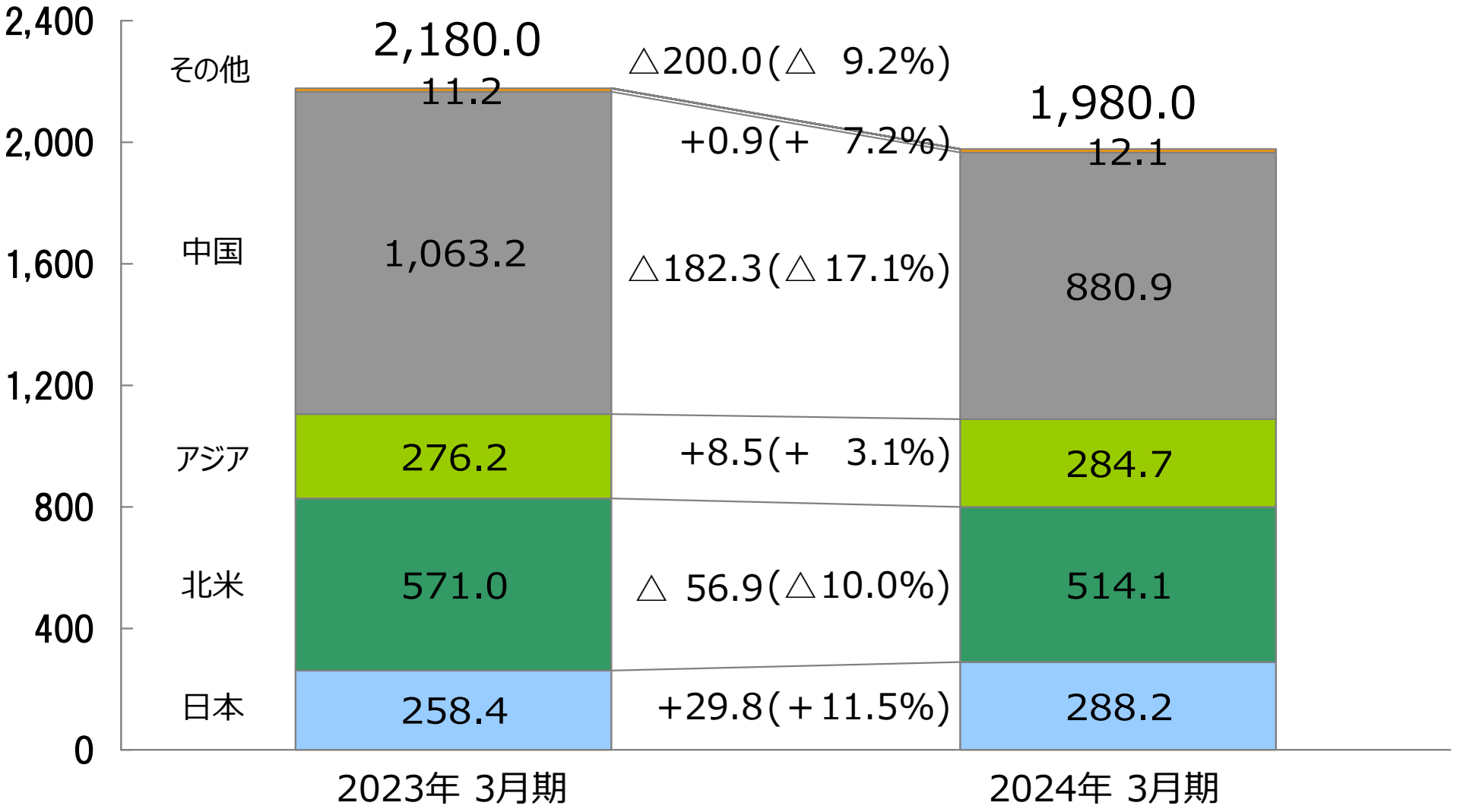
	2023年 3月期	2024年 3月期	増　減
売上収益	2,180.0	1,980.0	△9.2%
営業利益	38.5	60.0	55.7%
税引前利益	49.3	59.0	19.6%
当期利益	16.4	30.0	83.1%
親会社の所有者に帰属する当期利益	14.4	20.0	38.5%
基本的１株当たり当期利益	97.42円	134.97円	37.55円
１株当たり配当金	72.00円 ＊中間 36円，期末 36円	72.00円 ＊中間 36円，期末 36円	－円
	($1=¥135)	($1=¥132)	

顧客からの受注減を見込むものの、
利益体質強化及びエネルギー高騰の価格転嫁により、減収ながら増益となる見通し

24年３月期連結見通し 地域別売上収益

（単位：億円）

（セグメント間の内部売上収益及び振替高を除く）



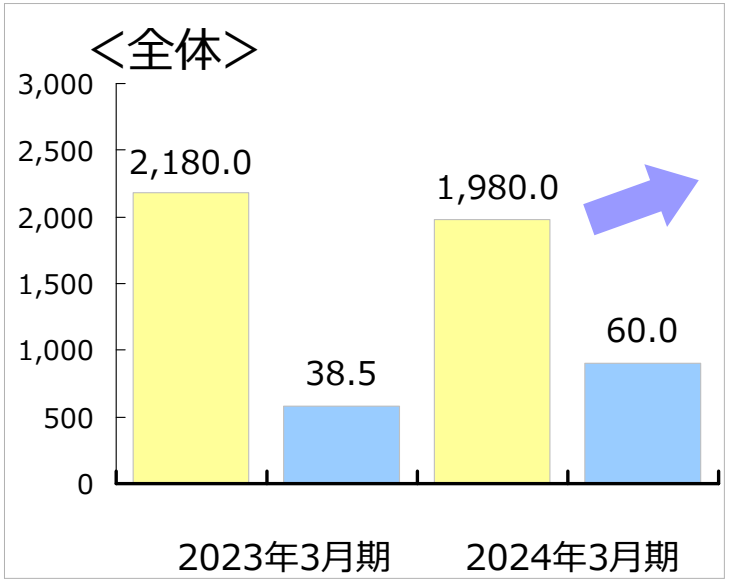
北米・中国地域において顧客からの受注減少を見込み、減収となる見通し

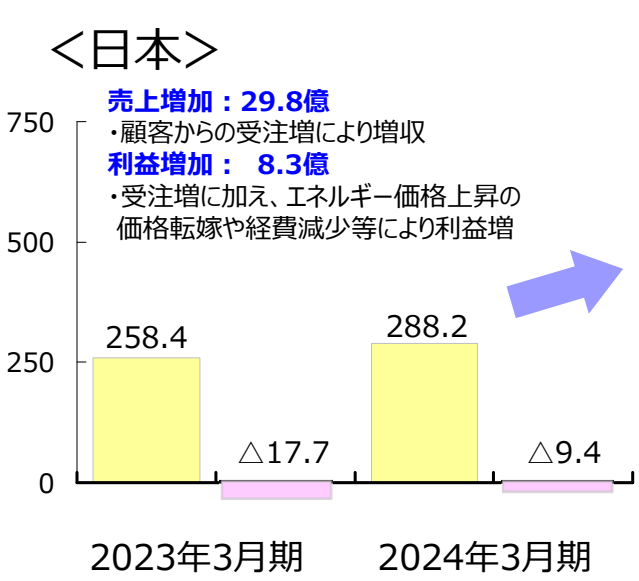
24年３月期連結見通し 地域別営業利益

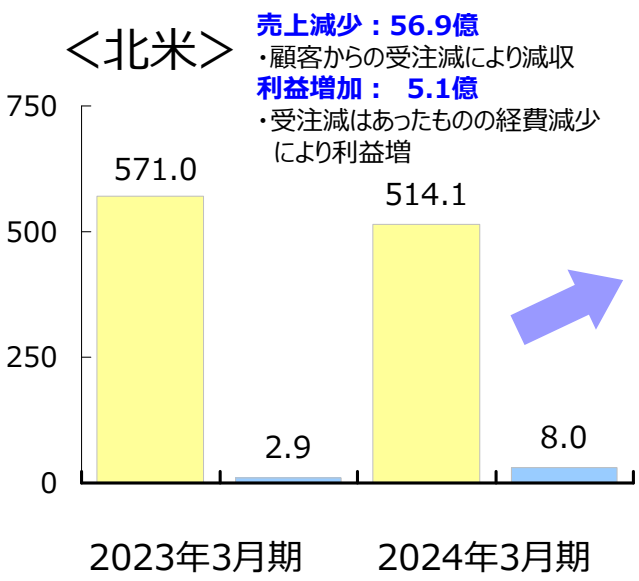
売上収益 → 利益増減

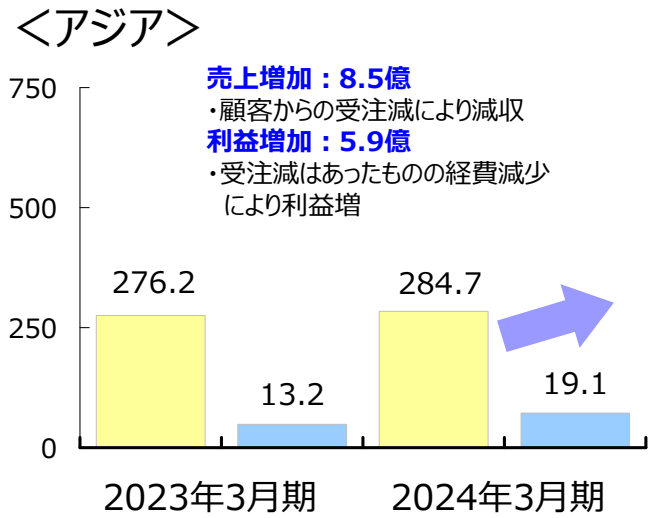
営業利益　営業損失

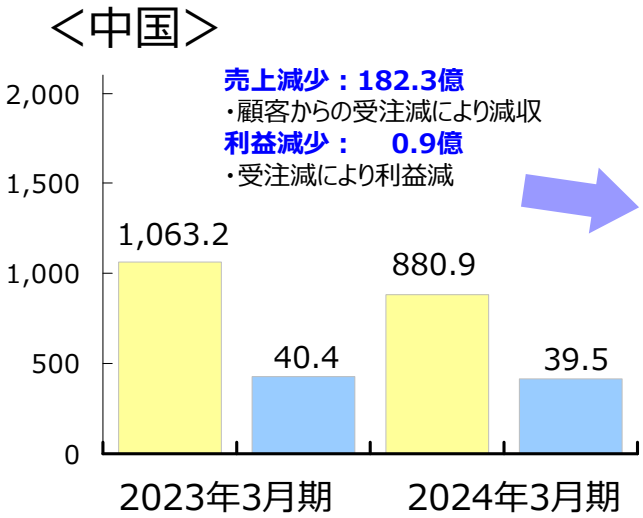
（単位：億円）

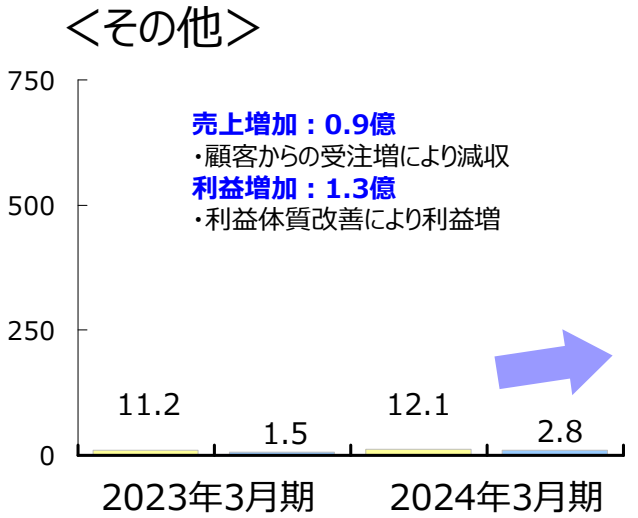








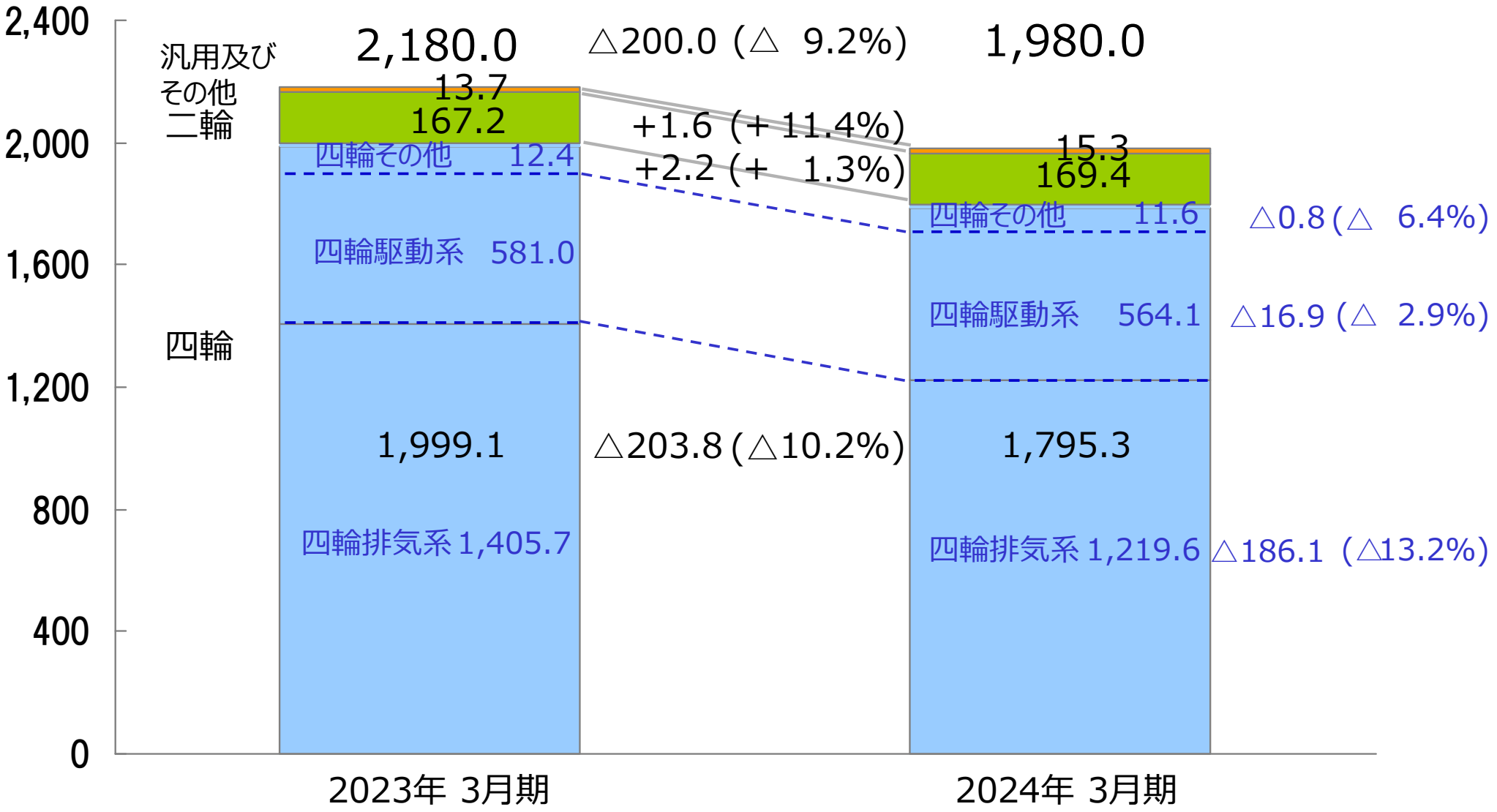




中国地域で減益となるものの、
日本・北米・アジア・その他地域では増益となり連結全体では増益見通し

24年３月期連結見通し 製品別売上収益

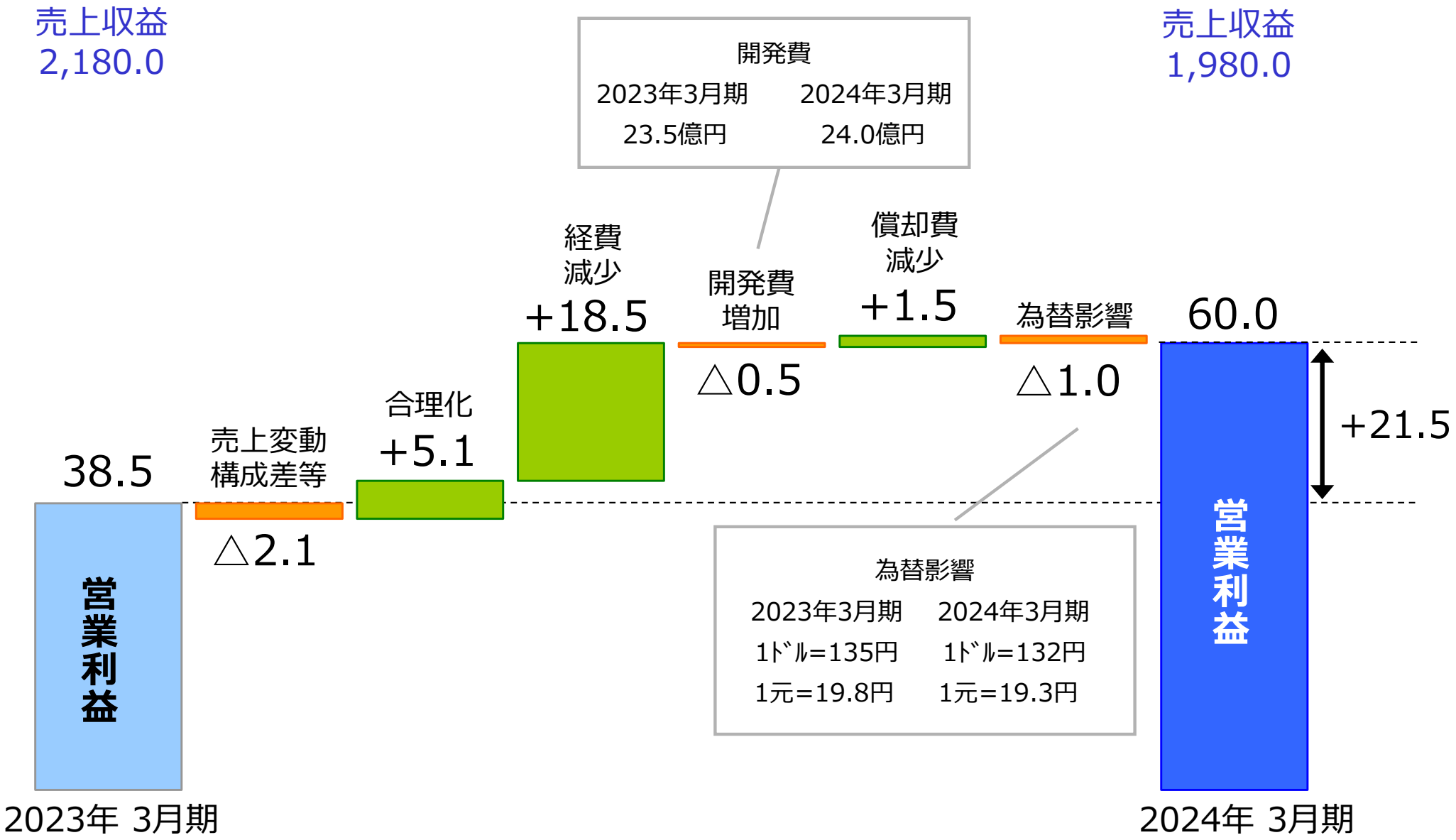
（単位：億円）



主に自動車部品四輪（排気系･駆動系）で減収となり、全体で減収見通し

24年３月期連結見通し 営業利益 増減要因

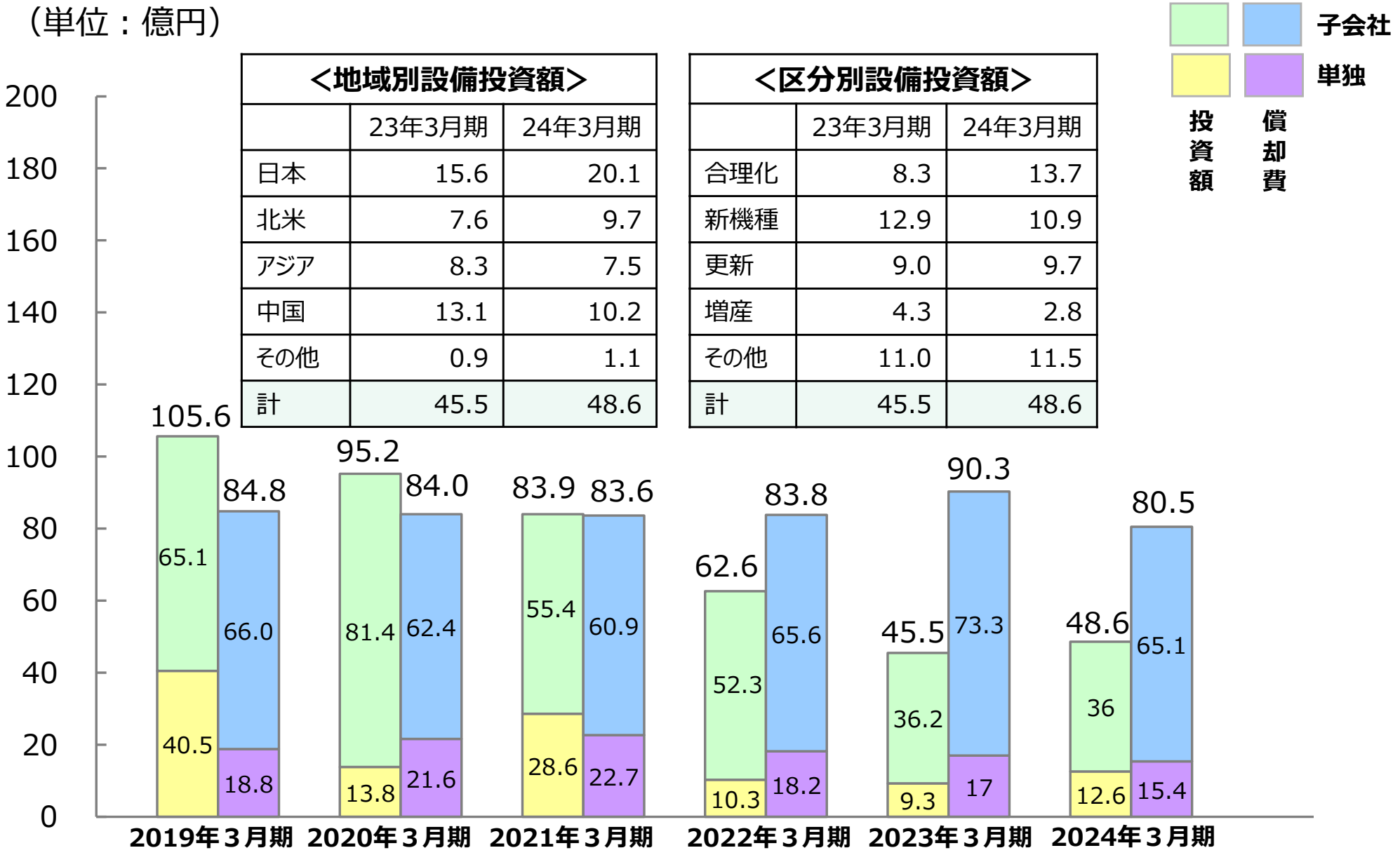
（単位：億円）



顧客からの受注減少はあるものの、
経費減少や合理化等により増益見通し

24年３月期連結見通し 設備投資額の推移

（単位：億円）



＜地域別設備投資額＞

	23年3月期	24年3月期
日本	15.6	20.1
北米	7.6	9.7
アジア	8.3	7.5
中国	13.1	10.2
その他	0.9	1.1
計	45.5	48.6

＜区分別設備投資額＞

	23年3月期	24年3月期
合理化	8.3	13.7
新機種	12.9	10.9
更新	9.0	9.7
増産	4.3	2.8
その他	11.0	11.5
計	45.5	48.6

単独は新機種投資が増加、子会社は合理化投資、更新投資が増加
全体として償却の範囲内

事業状況

第15次中期事業計画（2023年4月～2026年3月）

Yutakaの将来像



スローガン

次代を切り拓け
~Be a Game Changer~

行動指針

- 新しい発想と行動力でチャレンジを楽しむ
- 「選択と集中」+「スピード」

中国初　他販サイレンサーシステムを受注、量産化



中国にて東風汽車集団のハイエンド電動車ブランドである猛士汽車科技公司の新型車『猛士 917』に搭載されるサイレンサーシステムを新規受注。

車両のコンセプトにマッチした製品を送り出すため、ユタカの仕様/製法技術力と生産現場力をフル活用して取り組み、Yutakaグループの武漢金豊汽配有限公司での量産化を達成しました。



猛士917

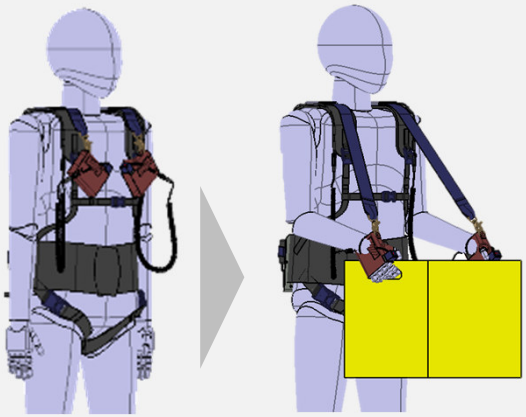
サイレンサーシステム

武漢金豊汽配有限公司(中国 湖北省)

現場の困りごとヒアリングからスタートした作業アシスト装具開発

ものづくりの現場では重量物を扱う作業もあり、また人手不足や女性活躍に悩む企業が多いとされており、ユタカ技研もその企業のひとつです。実際に自社の生産ラインの担当者に現場作業での困りごとをヒアリングし、その困りごとを解消するために、作業負荷・疲労軽減に効果のあるアシスト装具の開発をスタートしました。

ユタカ技研社内での活用だけでなく、一般向けにも展開することで、人手不足の解消や生産性向上を求める企業向けにも価値を提供していきたいと考えています。



プロトタイプイメージ

＜製品コンセプト＞

- **腕をサポートし**
  作業負荷と疲労を軽減
- **軽く、シンプルで着脱が簡単**
- **サポート不要の場合は**
  日常動作を妨げない



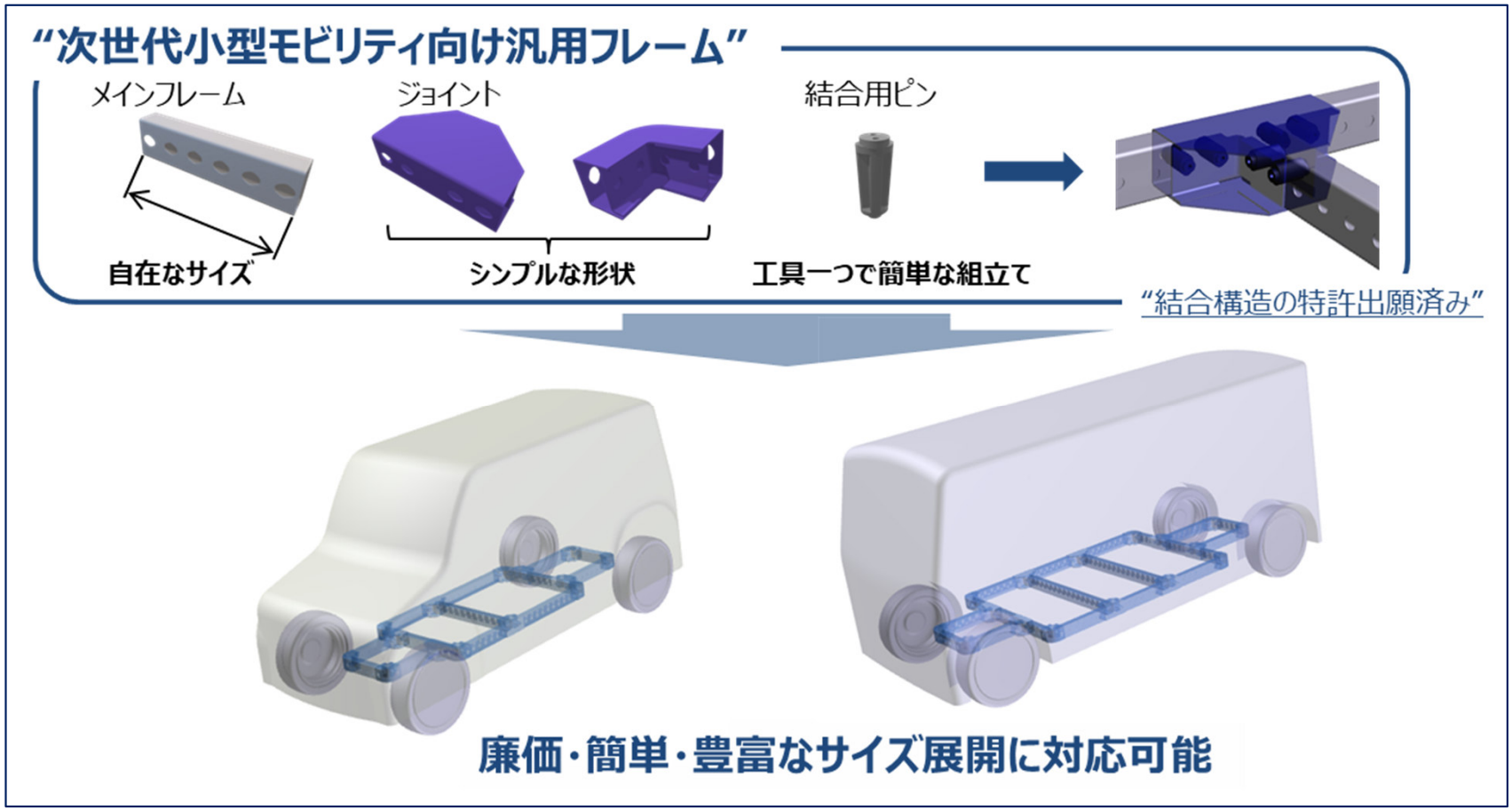
プロトタイプによる社内での実証試験

今期テストマーケティングを実施し、Yutaka製作業アシスト装具の有用性を検証します。

次世代小型モビリティ向け汎用フレームを開発し、E3Mobility社に提供

当社は、次世代小型モビリティ向けの汎用フレームを開発し、再エネ×EVスタートアップであるE3Mobility（本社：東京都千代田区、代表取締役：高橋 良彰）にて開発中の可搬式EV再エネ充電システム「Solar Charger」に採用されました。

＊製品概要



5/23(火)にPR TIMESに記事を掲載しました
(https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000002.000121746.html)


YUTAKA
Clean for the Future